

各市町の流域治水の取り組みについて ～令和4年度の実績及び令和5年度の予定について～

令和5年3月27日

令和4年度 第2回狩野川流域治水協議会

沼津市大平地区水災害対策プランの概要

■プランの目標

気候変動により降雨が頻発化・激甚化することを踏まえ、河川及び流域の関係者が一体となった治水対策を進めることとし、今後概ね20年で令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、床上浸水※を概ね解消することを目指す。（※浸水深が45cm以上である世帯を床上浸水とする。）

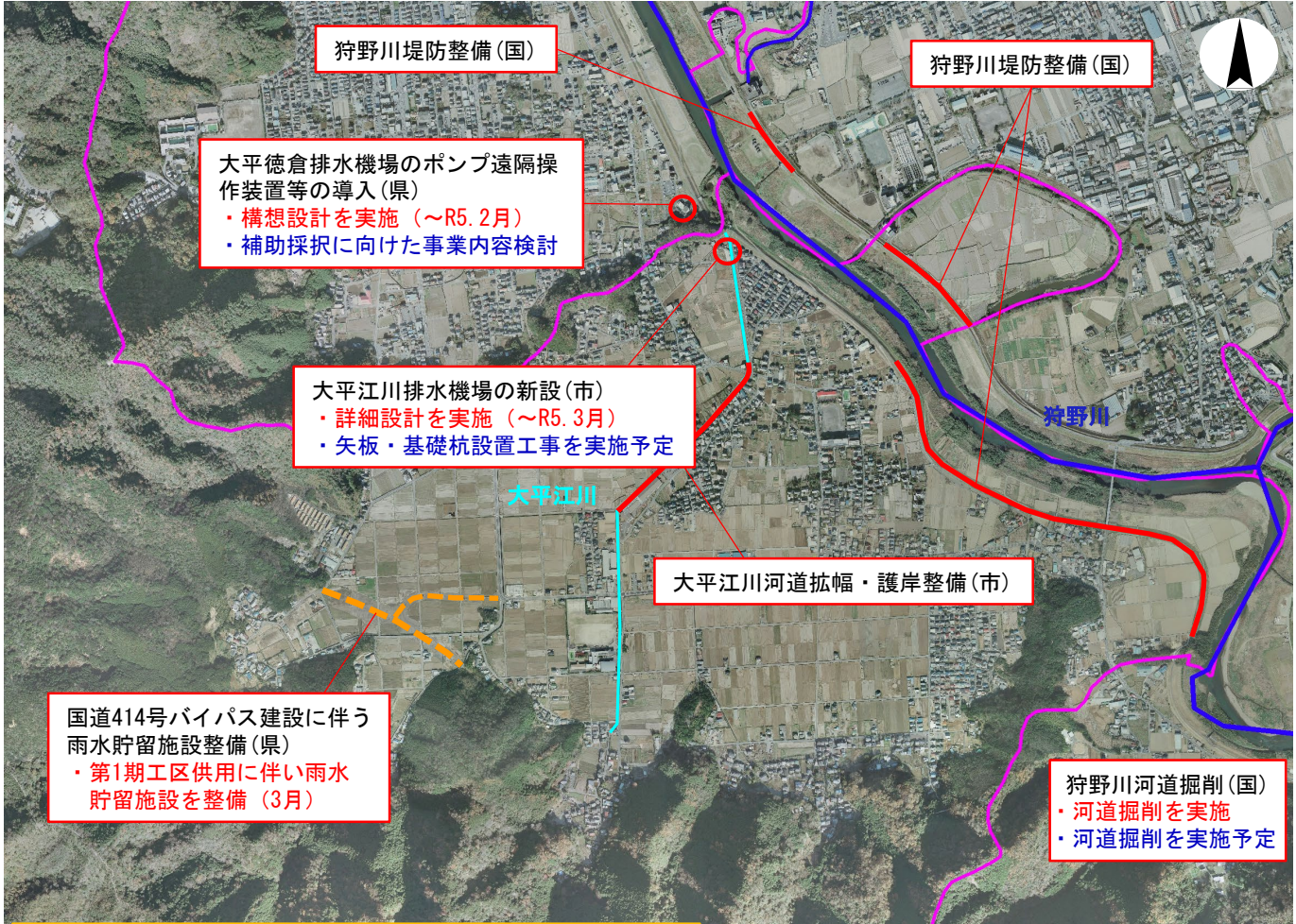
■水災害対策プランの対策メニュー（沼津市及び国、県）

3つの対策	施策名	対策メニュー	主体	分類	実施時期		
					短期(5年)	中期(10年)	長期(20年)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道流下能力の向上、戦略的維持管理の推進	狩野川堤防整備・河道掘削	国	ハード対策	○	○	
		大平江川河道拡幅・護岸整備※	沼津市	ハード対策	○	○	○
		大平江川排水機場の新設※	沼津市	ハード対策	○		
		許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導	国 沼津市	ソフト対策	○	○	○
		毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理	県 沼津市	ソフト対策	○	○	○
		大平徳倉排水機場のポンプ遠隔操作装置等の導入	県	ハード対策	○	○	
		河川パトによる土砂堆積状況等の把握	国 沼津市	ソフト対策	○	○	○
雨水貯留浸透機能の向上		都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導	沼津市	ソフト対策	○	○	○
		国道414号バイパス建設に伴う雨水貯留施設整備※	県	ハード対策	○		
被害対象を減少させるための対策	土地利用・住まい方の工夫	雨水浸透施設・雨水貯留施設設置費補助金制度の普及促進	沼津市	ソフト対策	○	○	○
被害の軽減・早期復旧・復興のための対策	避難体制の強化	避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業	沼津市	ソフト対策	○	○	○
		住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組(マイ・タイムライン普及の推進等)	沼津市	ソフト対策	○	○	○
		児童・生徒による地域コミュニティを通じた防災活動	沼津市	ソフト対策	○		

・ 今後も施設の建替などの機会に応じた流出抑制施設の整備など雨水を貯める取組を継続的に検討する。
 ・ 上記メニューは、今後の検討等により変更となる場合がある。

なお、※印は「大平地区豪雨災害対策アクションプラン(H24.8策定、H31.3改訂)」記載の対策を示す。

赤字：R4実績
 青字：R5予定



・ 雨水浸透施設・雨水貯留施設設置費補助金制度の普及促進(市)

・ 避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業(市)
 ・ 住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組(マイ・タイムライン普及の推進等)(市)
 ・ 児童・生徒による地域コミュニティを通じた防災活動(市)

・ 許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導(国・市)
 3年に1回合同点検を実施(国)
 点検・点検
 ・ 毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理(県・市)
 ・ 河川パトによる土砂堆積状況等の把握(国・市)
 ・ 都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導(市)



狩野川堤防整備(国)

大平徳倉排水機場のポンプ遠隔操作装置等の導入(県)

大平江川河道拡幅・護岸整備(市)

―― 市町境界
 ― 河川(国・県)
 ― 河川(市)

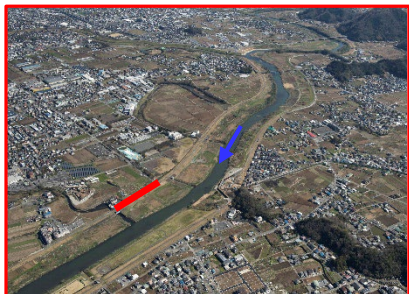
■ プランの目標

気候変動により降雨が頻発化・激甚化することを踏まえ、河川及び流域の関係者が一体となった治水対策を進めることとし、今後概ね20年で令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、床上浸水※を概ね5割軽減することを目指す。（※浸水深が45cm以上である世帯を床上浸水とする。）

■ 水災害対策プランの対策メニュー（三島市及び国、県）

3つの対策	施策名	対策メニュー	主体	分類	実施時期		
					短期(5年)	中期(10年)	長期(20年)
河道流下能力の向上、戦略的維持管理の推進 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道流下能力の向上、戦略的維持管理の推進	狩野川堤防整備・河道掘削	国	ハード対策	○		
		境川橋梁改築	県	ハード対策	○		
		境川河道拡幅・護岸整備	県	ハード対策	○	○	○
		御殿川捷水路整備・河道拡幅	県	ハード対策	○	○	○
		松毛川排水機場のポンプ遠隔操作装置等の導入	県	ハード対策	○	○	
		境川排水機場の遠隔制御化	国	ハード対策	○	○	
		松毛川河道掘削	三島市	ハード対策	○		
		雨水調整池堆積土砂の掘削	三島市	ハード対策	○	○	○
		既存調整池の維持管理	国・県 三島市	ソフト対策	○	○	○
		許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導	国・県 三島市	ソフト対策	○	○	○
		河川パトによる土砂堆積状況等の把握	国・県 三島市	ソフト対策	○	○	○
		毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理	県 三島市	ソフト対策	○	○	○
		水田を活用した流出抑制(水田貯留)	三島市	ソフト対策		○	○
		歩道舗装透水性化の推進	三島市	ソフト対策		○	○
都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導	三島市	ソフト対策		○	○		
被害対象を減少させるための対策	土地利用・住まい方の工夫	雨水浸透施設・雨水貯留施設設置費補助金制度の普及促進	三島市	ソフト対策	○	○	○
		立地適正化計画における居住や都市機能の誘導(災害リスクを考慮)	三島市	ソフト対策	○	○	○
被害の軽減・早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実 避難体制の強化	内水ハザードマップの作成・利活用	三島市	ソフト対策	○	○	○
		避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業	三島市	ソフト対策	○	○	○
		住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組(マイ・タイムライン普及の推進等)	三島市	ソフト対策	○	○	○
		要配慮者利用施設の避難確保計画作成促進	県 三島市	ソフト対策	○	○	○
		被災後の早期復旧・復興を図るための洪水浸水区域の土地情報の整備	三島市	ソフト対策	○	○	○
		介護施設等における水害対策に伴う改修等に対する助成	三島市	ソフト対策	○	○	○

- ・ 今後も施設の建替などの機会に応じた流出抑制施設の整備など雨水を貯める取組を継続的に検討する。
- ・ 上記メニューは、今後の検討等により変更となる場合がある。



狩野川堤防整備(国)



錦が丘調整池堆積土砂の掘削(市)



マイ・タイムライン普及の推進(市)

赤字：R4実績
青字：R5予定

- ・ 平成台調整池堆積土砂の掘削(市) 3月
- ・ 既存調整池の維持管理(国・県・市) ・点検・点検
- ・ 許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導(国・県・市) ・指導・指導
- ・ 河川パトによる土砂堆積状況等の把握(国・県・市) ・パト・パト
- ・ 毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理(県・市) ・点検・点検
- ・ 水田を活用した流出抑制(水田貯留)(市) ・安久地区で「田んぼダム」の実証実験(8~11月) ・県営農地農村防災対策事業の実施予定
- ・ 歩道舗装透水性化の推進(市) ・歩道新設時に実施 ・歩道新設時に実施予定
- ・ 都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導(県・市) ・都市計画法の開発行為対象案件等に対し調整池設置の指導・指導予定

- ・ 内水ハザードマップの作成・利活用(市)
- ・ 避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業(市) ・浸水想定区域等のある自治会を対象に情報伝達訓練を実施(6月) ・訓練実施予定
- ・ 住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組(マイ・タイムライン普及の推進等)(市) ・全自治会を対象とした事務説明会でマイ・タイムラインについて説明を実施(5月) ・自治会等に随時説明を実施予定
- ・ 要配慮者利用施設の避難確保計画作成促進(県・市) ・避難確保計画未提出の要配慮者利用施設に作成依頼 ・未提出の対象施設に作成を催告予定
- ・ 被災後の早期復旧・復興を図るための洪水浸水区域の土地情報の整備(市) ・地籍調査事業(大場地区)を実施 ・地籍調査事業(大場地区)を実施予定
- ・ 介護施設等における水害対策に伴う改修等に対する助成(市) ・地域密着型施設を対象に募集・募集予定

- 御殿川捷水路整備・河道拡幅(県) ・設計・捷水路越流部の整備
- 境川橋梁改築(県) ・右岸橋台の整備 ・左岸橋台の整備
- 境川河道拡幅・護岸整備(県)
- 境川排水機場の遠隔制御化(国)
- 狩野川堤防整備(国)
- 松毛川河道掘削(市) ・県営事業基本設計・掘削断面検討
- 松毛川排水機場のポンプ遠隔操作装置等の導入(県) ・遠隔操作システム構想設計 ・補助事業申請(農林水産省)を実施予定
- 狩野川河道掘削(国) ・河道掘削を実施・河道掘削を実施予定

- ・ 雨水浸透施設・雨水貯留施設設置費補助金制度の普及促進(市) ・補助金11基分を交付 ・補助金7基分を交付予定
- ・ 立地適正化計画における居住や都市機能の誘導(災害リスクを考慮)(市) ・物件調査等に関する来庁者に対し立地適正化計画について周知 ・災害リスク分析、課題及びハード・ソフト施策等を整理予定

市町境界
河川(国・県)
河川(市)

■ プランの目標

気候変動により降雨が頻発化・激甚化することを踏まえ、河川及び流域の関係者が一体となった治水対策を進めることとし、今後概ね20年で令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、床上浸水※を概ね5割軽減することを目指す。（※浸水深が45cm以上である世帯を床上浸水とする。）

■ 水災害対策プランの対策メニュー（伊豆の国市及び国、県）

3つの対策	施策名	対策メニュー	主体	分類	実施時期		
					短期(5年)	中期(10年)	長期(20年)
見溢をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道流下能力の向上、戦略的維持管理の推進	狩野川堤防整備・河道掘削	国	ハード対策	○	○	○
		葦山古川河道掘削・堤防天端舗装	県	ハード対策	○		
		柿沢川低水護岸の整備	県	ハード対策	○	○	
		宗光寺川河道掘削	県	ハード対策	○		
		戸沢川河道掘削・堤防天端舗装	県	ハード対策	○		
		堂川河道拡幅	県	ハード対策	○	○	
		洞川河道拡幅	伊豆の国市	ハード対策	○	○	○
		江間川流域の浸水対策	伊豆の国市	ハード対策	○	○	○
		葦山古川支川（中條地区）の浸水対策	伊豆の国市	ハード対策	○	○	○
		許可工作物の点検・巡視の実施及び占用者への適正な運用の指導	国・県 伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
		毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理	県 伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
		河川パトによる土砂堆積状況等の把握	国・県 伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
		排水機場（四日町・小坂・宗光寺）の遠隔制御化	国	ハード対策	○	○	
		排水機場（毘沙門・堂川）のポンプ遠隔操作装置等の導入	県	ハード対策	○	○	
		雨水貯留浸透機能の向上	都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導	県・伊豆の国市	ソフト対策	○	○
ため池（長瀬ため池）の事前放流	伊豆の国市		ソフト対策	○	○	○	
雨水貯留施設の整備促進	伊豆の国市		ハード対策	○	○		
既存調整池の維持管理	県・伊豆の国市		ソフト対策	○	○	○	
被害対象を減少させるための対策	土地利用・住まいの工夫	立地適正化計画に定める防災指針による対策（隣接市町との連携を含む。）の実施	伊豆の国市・函南町	ソフト対策	○	○	○
被害の軽減・早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	内水ハザードマップの作成・利活用	伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
		要配慮者利用施設の避難確保計画作成促進	県 伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
	避難体制の強化	住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組（マイ・タイムライン普及の推進等）	伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
		避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業	伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
		国道414号（小坂地区）冠水対策	県	ハード対策	○		



狩野川堤防整備(国)



堂川河道拡幅(県)

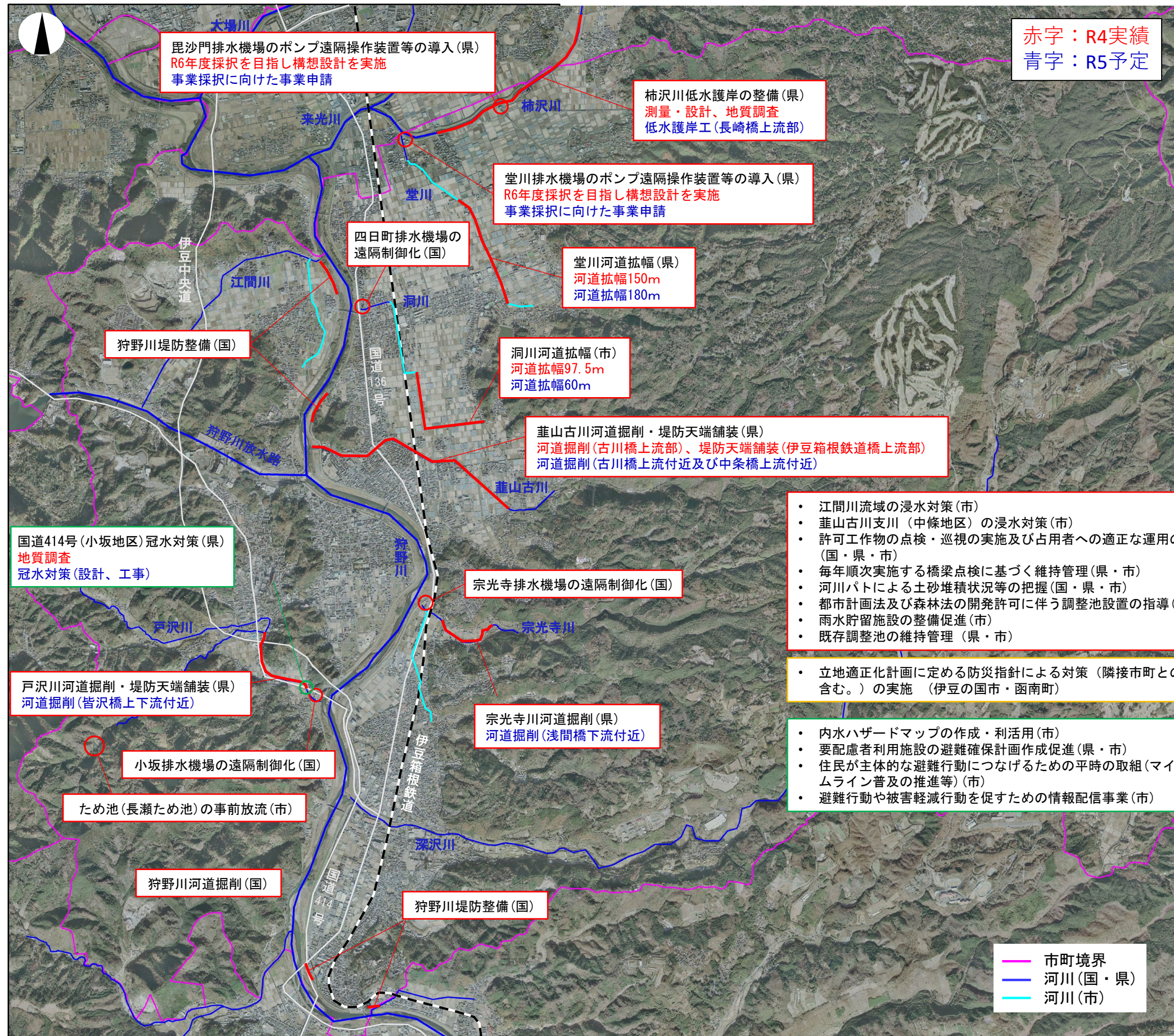


洞川河道拡幅(市)



ため池(長瀬ため池)の事前放流(市)

・ 今後も施設の建替などの機会に応じた流出抑制施設の整備など雨水を貯める取組を継続的に検討する。
 ・ 上記メニューは、今後の検討等により変更となる場合がある。



◆狩野川水系流域治水プロジェクトに基づく内水対策に関して、伊豆の国市と函南町にまたがる新田・原木・長崎・四日町地区を対象とし、関係機関により検討を深め、対策内容の拡充を図るとともに、今後の気候変動を踏まえた抜本的な内水対策の検討を目的に開催。

参加機関 **※実務者を対象**

- ・国土交通省沼津河川国道事務所（調査課）
- ・静岡県沼津土木事務所（企画検査課）
- ・静岡県東部農林事務所（農村整備課）
- ・伊豆の国市（危機管理課、建設課、都市計画課、下水道課、農林課）
- ・函南町（建設課）※第3回から参加

開催内容

◆第1回

- ・日 時：令和4年6月24日（金）
- ・場 所：伊豆の国市役所 第1会議室
- ・議 事：
 1. 勉強会の進め方
 2. 流域治水対策の効果について（水災害対策アクションプラン）
 3. 流域治水プロジェクトのフォローアップ
 4. 新たな流出抑制対策の検討
 5. 特定都市河川の指定について

◆第2回

- ・日 時：令和4年10月4日（火）
- ・場 所：伊豆の国市役所 災害対策室
- ・議 事：
 1. 7月19日の内水被害状況
 2. 貯留候補施設・新たな内水対策の調査結果
 3. 内水被害の発生要因の分析
 4. その他
狩野川放水路の内水被害への効果 等

◆第3回

- ・日 時：令和4年12月22日（木）
- ・場 所：伊豆の国市役所 第5会議室
- ・議 事：
 1. 流域貯留の効果
 2. 新たな内水対策の検討
 3. 内水対策の効果分析
 4. 気候変動を踏まえた内水対策の検討
 5. その他
事例紹介、特定都市河川指定のメリット・デメリット 等

◆第4回

- ・日 時：令和5年3月1日（水）
- ・場 所：伊豆の国市役所 災害対策室
- ・議 事：
 1. 気候変動を踏まえた内水対策の検討（案）
 2. 内水対策の効果検証・整備案
 3. 特定都市河川指定の検討
 4. その他
流域治水協議会の開催について 等

第1回勉強会の様子



第4回勉強会の様子



函南町水災害対策プランの概要

■プランの目標

気候変動により降雨が頻発化・激甚化することを踏まえ、河川及び流域の関係者が一体となった治水対策を進めることとし、今後概ね20年で令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、床上浸水※を概ね4割軽減することを目指す。（※浸水深が45cm以上である世帯を床上浸水とする。）

■水災害対策プランの対策メニュー（函南町及び国、県）

赤字：R4実績
青字：R5予定

3つの対策	施策名	対策メニュー	主体	分類	実施時期				
					短期(5年)	中期(10年)	長期(20年)		
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道流下能力の向上、戦略的維持管理の推進	狩野川河道掘削	国	ハード対策	○				
		来光川堤防整備・護岸整備	県	ハード対策	○	○			
		柿沢川低水護岸の整備	県	ハード対策	○	○			
		町管理河川の堆積土砂の浚渫	函南町	ハード対策	○	○	○		
		排水機場（落合・塚本・新田・稲妻・畑毛）のポンプ遠隔操作装置等の導入	県 函南町	ハード対策	○	○			
		函南観音川排水機場の遠隔制御化	国	ハード対策	○	○			
		許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導	国・県 函南町	ソフト対策	○	○	○		
		毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理	県 函南町	ソフト対策	○	○	○		
		河川バトによる土砂堆積状況等の把握	国・県 函南町	ソフト対策	○	○	○		
		雨水貯留浸透機能の向上		歩道舗装透水性化の推進	函南町	ハード対策	○	○	○
				新田第一・第二樋管連絡水路新設	函南町	ハード対策	○		
				ため池の事前放流	函南町	ソフト対策	○	○	○
公共施設への貯留施設新設	函南町			ハード対策	○	○	○		
都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導	県・函南町			ソフト対策	○	○	○		
狩野川東部浄化センター第2期用地への調整池新設	函南町			ハード対策	○				
水田を活用した流出抑制(水田貯留)	函南町			ソフト対策	○	○	○		
既存調整池の維持管理	県・函南町			ソフト対策	○	○	○		
被害対象を減少させるための対策	土地利用・住まい方の工夫			雨水浸透施設・雨水貯留施設設置費補助金制度の普及促進	函南町	ソフト対策	○	○	○
		立地適正化計画に定める防災指針による対策（隣接市町との連携を含む。）の実施	函南町 伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○		
被害の軽減・早期復旧・復興のための対策	避難体制の強化	避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業	函南町	ソフト対策	○	○	○		
		要配慮者利用施設の避難確保計画作成促進	県 函南町	ソフト対策	○	○	○		
		住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組(マイ・タイムライン普及の推進等)	函南町	ソフト対策	○	○	○		
		国道136号バイパス(塚本地区)冠水対策	県	ハード対策	○				

・雨水浸透施設・雨水貯留施設設置費補助金制度の普及促進(町)
 ・5件実施、広報誌にて周知(6月) ・6件予定、広報周知継続
 ・立地適正化計画に定める防災指針による対策(隣接市町との連携を含む。)の実施(町・伊豆の国市)
 ・基礎調査実施 ・計画に反映予定

・避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業(町)
 ・安心情報メール登録促進(R5.2月末 5,991件)、防災ラジオ販売促進(R5.3月末 2,235台) ・登録及び販売促進継続予定
 ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成促進(県・町)
 【県】・支援 ・支援
 【町】・避難確保計画作成促進
 ・計画完成予定、防災訓練実施予定

・住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組(マイ・タイムライン普及の推進等)(町)
 ・防災出前講座による普及推進 ・R4同様

・町管理河川の堆積土砂の浚渫(町)
 ・(準)谷下川(440m)、(普)八ツ溝川(780m)浚渫を実施 ・R4同様
 ・許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導(国・県・町)
 【国】・指導 ・指導 【県】・3年に1回合同点検を実施
 【町】・道路パトロールを実施(要領に基づき指導) ・R4同様
 ・毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理(県・町)【県】・点検・点検
 【町】・31橋+7橋(県一括15m以上)の点検実施・21橋+7橋(県一括)の点検予定
 ・河川バトによる土砂堆積状況等の把握(国・県・町)
 【県】・バト・バト 【町】・実施(4月) ・R4同様
 ・歩道舗装透水性化の推進(町)
 ・1-8号線(180m)を実施
 ・ため池の事前放流(町) ・軽井沢池低水位実施・検討(牧場の池、堤ヶ池)
 ・公共施設への貯留施設新設(町) ・設置箇所検討 ・測量設計予定
 ・都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導(県・町)
 【町・県】・規則及び要領により指導 ・R4同様
 ・水田を活用した流出抑制(水田貯留)(町)
 ・調整板設置検討 ・設置予定(10箇所)
 ・既存調整池の維持管理(県・町)
 【県】・田方農高点検・田方農高点検 【町】・点検(出水期前) ・R4同様

・ため池(軽井沢池)の事前放流(町)
 ・放流実施(常時低水位) ・R4同様

・来光川堤防整備・護岸整備(県)
 ・右岸護岸整備 ・右岸護岸整備

・狩野川東部浄化センター第2期用地への調整池新設(町)
 ・県と調整中 ・調整継続

・畑毛排水機場のポンプ遠隔操作装置等の導入(県)

・柿沢川低水護岸の整備(県)
 ・測量、地質調査、設計 ・工事着手予定

・稲妻排水機場のポンプ遠隔操作装置等の導入(県)

・新田第一・第二樋管連絡水路新設(町)
 ・新設工事を実施(64m)
 ・新設工事を予定(66m、完了予定)

※排水機場(落合・塚本・新田・稲妻・畑毛)ポンプ遠隔操作装置等の導入・調査 ・申請

・新田排水機場のポンプ遠隔操作装置等の導入(県)

・国道136号バイパス(塚本地区)冠水対策(県) ・検討 ・検討

・狩野川河道掘削(国)
 ・掘削実施 ・掘削予定

市町境界
 河川(国・県)
 河川(町)



函南観音川排水機場の遠隔制御化(国)



来光川堤防整備・護岸整備(県)



ため池(軽井沢池)の事前放流(町) 6

・今後も施設の建替などの機会に応じた流出抑制施設の整備など雨水を貯める取組を継続的に検討する。
 ・上記メニューは、今後の検討等により変更となる場合がある。

■プランの目標

気候変動により降雨が頻発化・激甚化することを踏まえ、河川及び流域の関係者が一体となった治水対策を進めることとし、今後概ね20年で令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、狩野川本川の溢水を解消するとともに、避難体制の強化及び住まい方の工夫により町内の水害リスクを軽減する。

■水災害対策プランの対策メニュー（清水町及び国、県）

赤字：R4実績
青字：R5予定

3つの対策	施策名	対策メニュー	主体	分類	実施時期		
					短期(5年)	中期(10年)	長期(20年)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道流下能力の向上、戦略的維持管理の推進	狩野川堤防整備・河道掘削	国	ハード対策	○		
		境川橋梁改築	県	ハード対策	○		
		境川河道拡幅・護岸整備	県	ハード対策	○	○	○
		許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導	国・県 清水町	ソフト対策	○	○	○
		江川及び新川の土砂掘削	清水町	ハード対策	○	○	○
		丸池川・的場川、耕地川の護岸修繕	清水町	ハード対策	○	○	○
		町内河川の樹木伐採及び堤防等の除草	清水町	ハード対策	○	○	○
		大平徳倉排水機場のポンプ遠隔操作装置等の導入	県	ハード対策	○	○	
		毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理	県 清水町	ソフト対策	○	○	○
		河川パトによる土砂堆積状況等の把握	国・県 清水町	ソフト対策	○	○	○
雨水貯留浸透機能の向上		都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導	県 清水町	ソフト対策	○	○	○
		既存調整池の維持管理	清水町	ソフト対策	○	○	○
被害対象を減少させるための対策	土地利用・住まい方の工夫	立地適正化計画に定める防災指針による対策の実施	清水町	ソフト対策	○	○	○
被害の軽減・早期復旧・復興のための対策	避難体制の強化	避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業	清水町	ソフト対策	○	○	○
		安全な避難先の確保	清水町	ソフト対策	○		
		住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組(マイ・タイムライン普及の推進等)	清水町	ソフト対策	○		

・ 今後も施設の建替などの機会に応じた流出抑制施設の整備など雨水を貯める取組を継続的に検討する。
・ 上記メニューは、今後の検討等により変更となる場合がある。



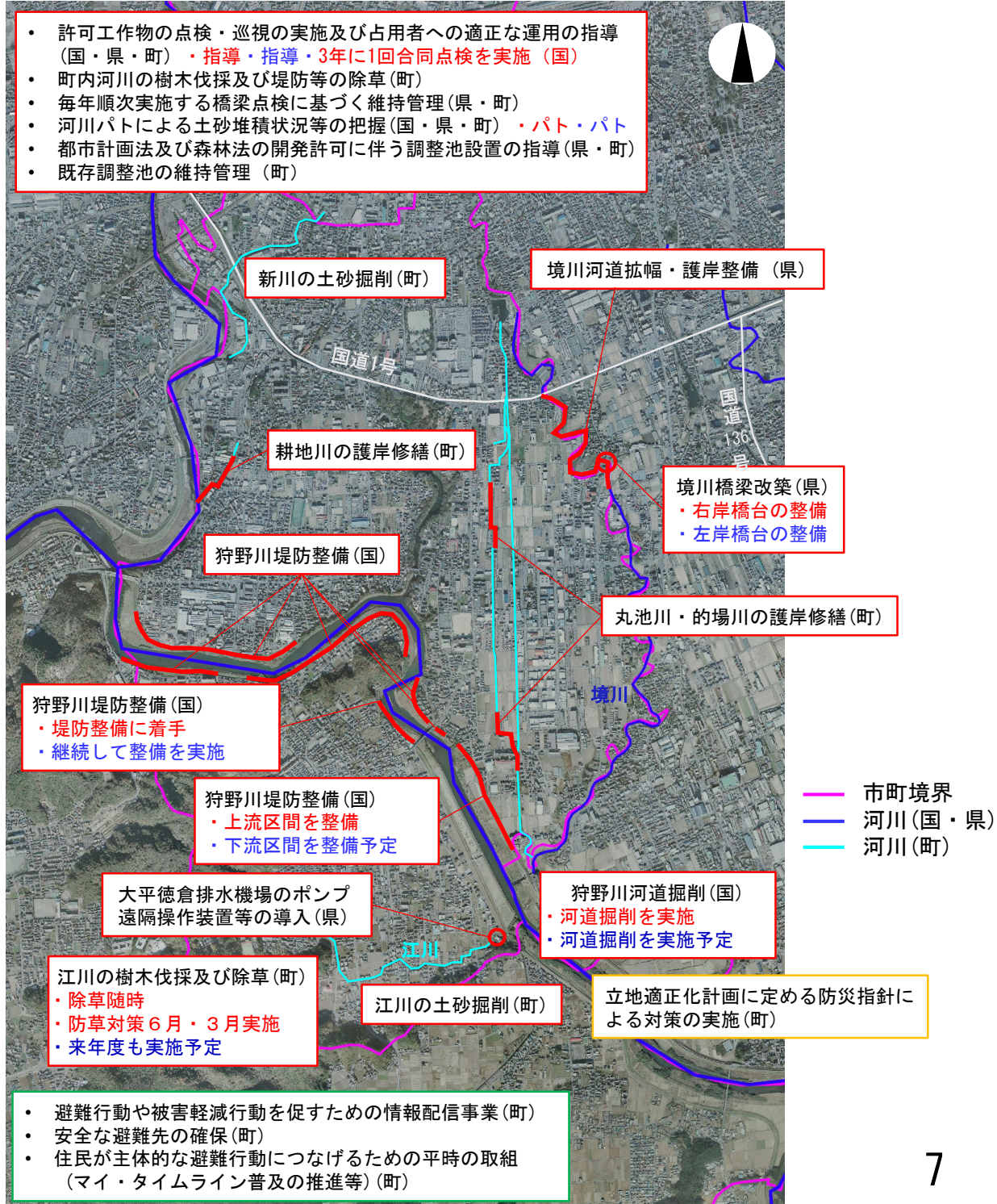
狩野川堤防整備(国)



境川河道拡幅・護岸整備(県)



ワークショップによるマイ・タイムライン普及の推進(町)



- 許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導(国・県・町)・指導・指導・3年に1回合同点検を実施(国)
- 町内河川の樹木伐採及び堤防等の除草(町)
- 毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理(県・町)
- 河川パトによる土砂堆積状況等の把握(国・県・町)・パト・パト
- 都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導(県・町)
- 既存調整池の維持管理(町)

- 狩野川堤防整備(国)
・堤防整備に着手
・継続して整備を実施

- 狩野川堤防整備(国)
・上流区間を整備
・下流区間を整備予定

- 大平徳倉排水機場のポンプ遠隔操作装置等の導入(県)

- 江川の樹木伐採及び除草(町)
・除草随時
・防草対策6月・3月実施
・来年度も実施予定

- 避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業(町)
- 安全な避難先の確保(町)
- 住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組(マイ・タイムライン普及の推進等)(町)

目標：狩野川上流部の河川・砂防設備等の一層の整備推進

■ 流域治水プロジェクトとは

- ✓ 近年、気候変動の影響により水災害のリスクが増大しています。激甚化、頻発する豪雨災害に対し、流域のあらゆる関係者が主体的に水害対策に取り組む「流域治水」を進めていく必要があります。
- ✓ 流域治水プロジェクトは、気候変動による将来的な流出量の増加も踏まえ、長期的な河川および流域での対策の取組の考え方を念頭に、近年発生した洪水に対して被害軽減を図るため、短期、中期、中長期の施策をまとめたものです。

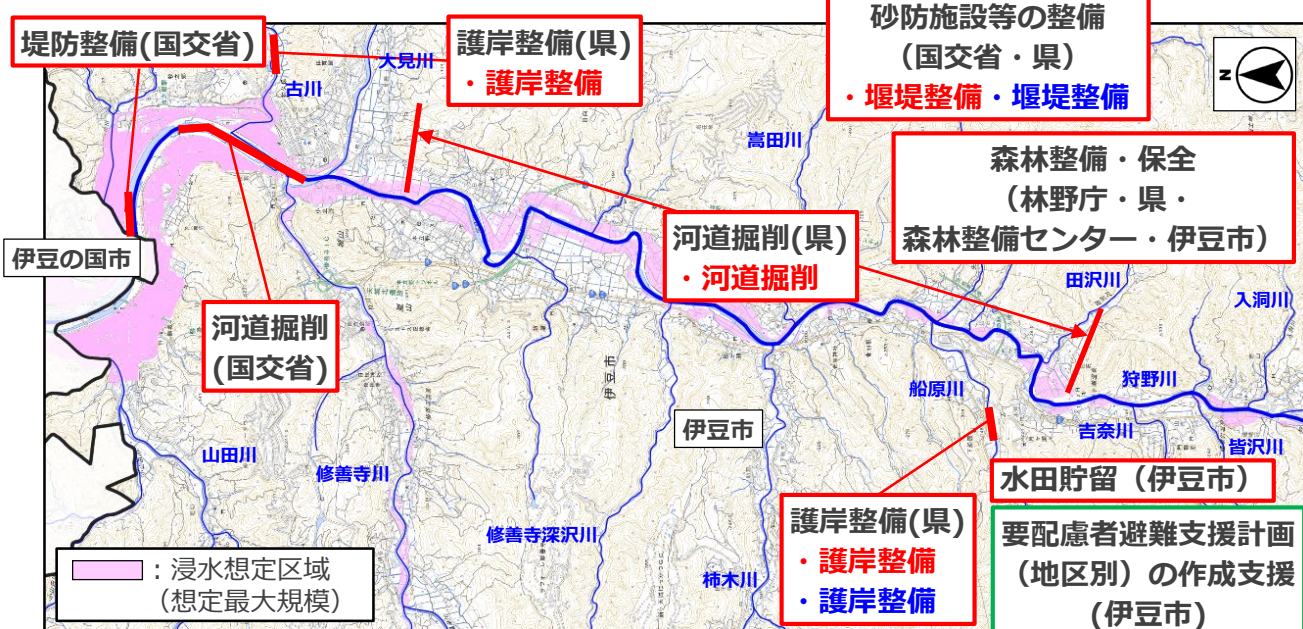
■ 伊豆市の地形の特徴

- ✓ 伊豆市は、狩野川流域の上流端に位置しており、大部分が山地で占められており、修善寺川合流点付近から開けた沖積平野（田方平野）が広がっており、浸水形態は山地は貯留型（その場に留まる、浸水深が深くなりやすい）、平野は拡散型（浸水範囲が広がりやすい）となっています。
- ✓ 伊豆市内では、平成16年に支川の修善寺川が被災して以降、河川整備の進捗により狩野川本川・支川ともに越水などの水災害は生じていませんが、想定最大規模の洪水発生時は、上記の特徴から、市内全域の多くの地区で被害が発生することが想定されることから、一度水災害が発生すると甚大な被害が想定されるとともに復旧までに相当な時間を要する可能性があります。

■ 伊豆市および関係機関の流域治水プロジェクト取組メニュー（案）

■ 流域治水（伊豆市版）の対策メニュー（案）

3つの対策	対策メニュー（案）	主体	短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	狩野川（支川含）河川整備	国土交通省・県	○	○	○
	都市計画法開発許可に伴う調整池設置の指導	伊豆市	○		
	水田貯留の推進（水田の保全等）				○
	砂防施設等の整備	国土交通省 林野庁・県 森林整備センター 伊豆市	○	○	○
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画（作成中） ・居住や都市機能の誘導 ・居住誘導区域内で行う防災対策・安全確保策を定める防災指針の作成	伊豆市	○		
	地区計画の活用 集約都市形成支援事業を活用した災害ハザードエリアからの移転促進に向けた調査				○
被害の軽減・早期復旧・復興のための対策	洪水ハザードマップの作成・利活用	伊豆市	○		
	被災後の早期復旧・復興を図るための洪水浸水区域の土地情報の整備		○	○	○
	マイタイムラインの推進およびこれを活用した訓練の実施		○	○	○
	防災出前講座の実施		○	○	○
	県総合防災アプリやSNSを活用した防災情報の提供		○	○	○
	災害時避難行動要支援者の個別避難行動計画・避難生活の安全を図るための「災害時ケアプラン」作成に向けた支援		○		
	要配慮者施設の避難確保計画や地区防災計画の作成支援				○



赤字：R4実績
青字：R5予定



森林整備・保全イメージ（作業中）



水田貯留イメージ（水田の保全等）



消防団と自主防災組織の合同水防訓練

※上記の対策は、今後の検討等により変更となる場合がある。

下図出典：国土地理院地図

目標：治水と治山が連携した安心・安全なまちづくりを進める

■ 流域治水プロジェクトとは

- ✓ 近年、気候変動の影響により水災害のリスクが増大しています。激甚化、頻発する豪雨災害に対し、流域のあらゆる関係者が主体的に水害対策に取り組む「流域治水」を進めていく必要があります。
- ✓ 流域治水プロジェクトは、気候変動による将来的な流出量の増加も踏まえ、長期的な河川および流域での対策の取組の考え方を念頭に、近年発生した洪水に対して被害軽減を図るため、短期、中期、中長期の施策をまとめたものです。

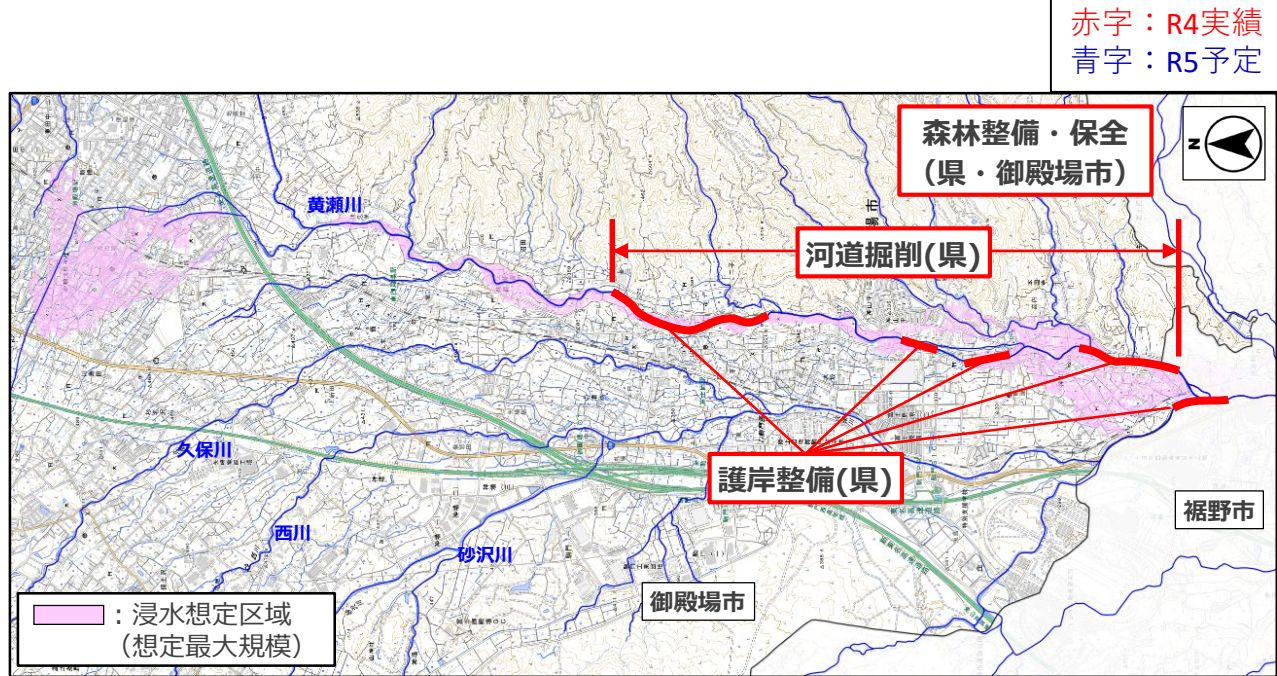
■ 御殿場市の地形の特徴

- ✓ 御殿場市は、県東部に位置し、富士山・箱根山などの山麓斜面に囲まれており、これらの斜面が黄瀬川で集合する凹型の地形となっていることから、浸水形態は流下型（下流側へ広がりやすい）となっています。
- ✓ 御殿場市内では、令和3年7月洪水にて黄瀬川沿川の複数地区で床下浸水などの被害が発生しましたが、想定最大規模の洪水発生時は、上記の地形の特徴から、令和3年7月洪水以上に多くの地区で被害が発生することが想定され、一度水災害が発生すると甚大な被害が想定されるとともに復旧までに相当な時間を要する可能性があります。

■ 流域治水（御殿場市版）の対策メニュー（案）

3つの対策	対策メニュー（案）	主体	短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	黄瀬川（支川含）河川整備	県	○	○	
	都市計画法開発許可に伴う調整池設置の指導	御殿場市			○
	森林整備・保全	県・御殿場市			○
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	洪水・内水ハザードマップの作成・利活用	御殿場市	○		
	マイ・タイムラインの推進 マイ・タイムラインを活用した訓練の実施				○
	防災出前講座の実施		○		
	洪水浸水想定区域内の避難促進施設の避難確保計画の策定及び訓練の実施				○
	気象観測システムの構築		○		

■ 御殿場市および関係機関の流域治水プロジェクト取組メニュー(案)



土砂災害全国防災訓練



自主防災会を対象とした水防訓練（座学の部）

※上記の対策は、今後の検討等により変更となる場合がある。

下図出典：国土地理院地図

目標：要配慮者施設の避難確保計画、地区防災計画の作成支援や防災情報提供の円滑化により事前防災対策充実を行うとともに、氾濫を防ぎ減らす対策を検討し実施する

■ 流域治水プロジェクトとは

- ✓ 近年、気候変動の影響により水災害のリスクが増大しています。激甚化、頻発する豪雨災害に対し、流域のあらゆる関係者が主体的に水害対策に取り組む「流域治水」を進めていく必要があります。
- ✓ 流域治水プロジェクトは、気候変動による将来的な流出量の増加も踏まえ、長期的な河川および流域での対策の取組の考え方を念頭に、近年発生した洪水に対して被害軽減を図るため、短期、中期、中長期の施策をまとめたものです。

■ 裾野市の地形の特徴

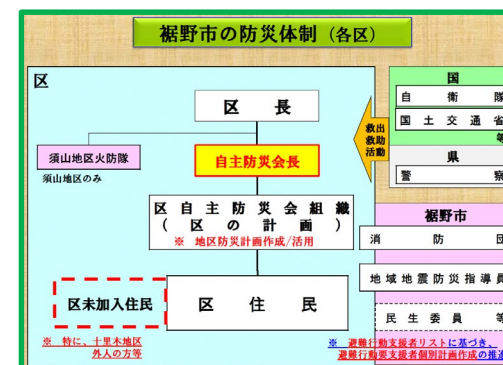
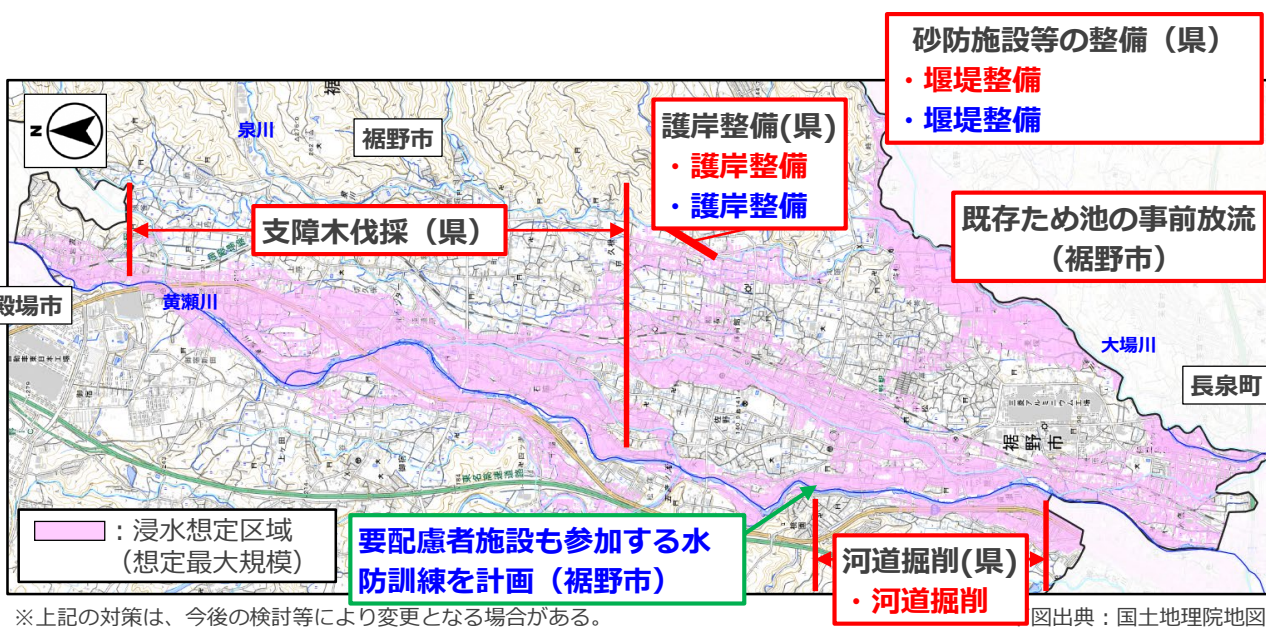
- ✓ 裾野市は、県東部に位置し、富士山・愛鷹山・箱根山の3つの山麓斜面に囲まれており、これらの斜面が黄瀬川で集合する凹型の地形となっていることから、浸水形態は流下型（下流側へ広がりやすい）となっています。
- ✓ 裾野市内では、令和3年7月洪水にて黄瀬川沿川で床下浸水や護岸が被災するなどの被害が発生しましたが、想定最大規模の洪水発生時は、上記の地形の特徴から、令和3年7月洪水以上に多くの地区で被害が発生することが想定され、一度水災害が発生すると甚大な被害が想定されるとともに復旧までに相当な時間を要する可能性があります。

■ 流域治水（裾野市版）の対策メニュー（案）

3つの対策	対策メニュー（案）	主体	短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	黄瀬川（支川含）河川整備	県	○	○	
	砂防施設等の整備		○		
	ため池の事前放流等による調整容量の確保 排水機場の予備排水	裾野市			○
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画 ・居住や都市機能の誘導 ・居住誘導区域内で行う防災対策・安全確保策を定める防災指針の作成	裾野市			○
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	洪水・内水ハザードマップの作成・利活用	裾野市	○		
	マイタイムラインの推進 およびこれを活用した訓練の実施		○		
	防災出前講座の実施		○		
	県総合防災アプリやSNSを活用した 防災情報の提供		○		
	洪水浸水想定区域内の避難促進施設の 避難確保計画の策定及び訓練の実施		○		
	要配慮者施設の避難確保計画や 地区防災計画の作成支援		○		

■ 裾野市および関係機関の流域治水プロジェクト取組メニュー（案）

赤字：R4実績
青字：R5予定



地区防災計画の位置づけ（図）



地区防災計画作成奨励（住民説明）



県防災アプリ機能を活用した避難所受付体験

目標：長泉町雨水排水路維持管理計画に基づく普通河川整備を進め、溢水を防止する。更に、国や県などの関係機関とのさらなる協力体制を築き、住民と連携した避難体制の強化を講じていく。

■流域治水プロジェクトとは

- ✓ 近年、気候変動の影響により水災害のリスクが増大しています。激甚化、頻発する豪雨災害に対し、流域のあらゆる関係者が主体的に水害対策に取り組む「流域治水」を進めていく必要があります。
- ✓ 流域治水プロジェクトは、気候変動による将来的な流出量の増加も踏まえ、長期的な河川および流域での対策の取組の考え方を念頭に、近年発生した洪水に対して被害軽減を図るため、短期、中期、中長期の施策をまとめたものです。

■長泉町の地形の特徴

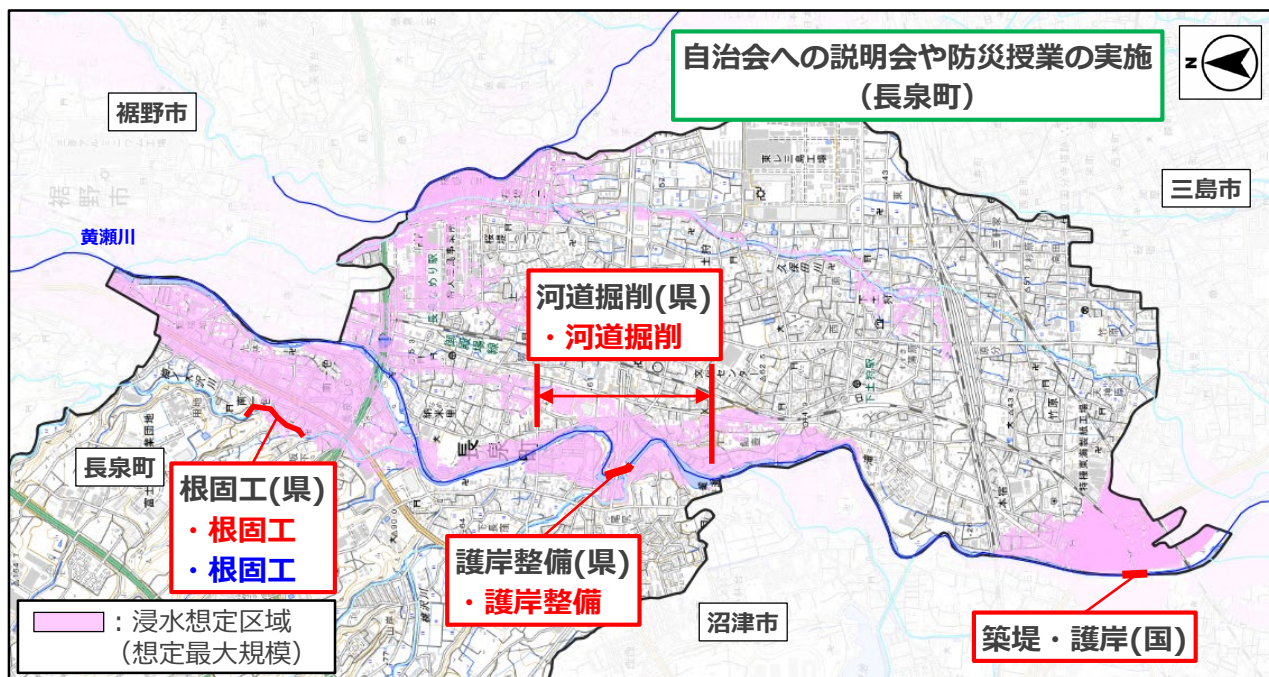
- ✓ 長泉町は、県東部に位置し、町の北部は富士山から続く山地が大半を占め、南部は市街地が広がっており、各種工業施設も集中しています。
- ✓ 浸水形態は、山地は流下型（広がる速度が速い）、平野は拡散型（浸水範囲が広がりやすい）となっています。
- ✓ 長泉町内では、令和3年7月豪雨により黄瀬川沿川にて護岸が被災するなどの被害が発生しましたが、想定最大規模の洪水発生時は、上記の地形の特徴から、令和3年7月豪雨以上に多くの地区で被害が発生することが想定され、一度水災害が発生すると甚大な被害が想定されるとともに復旧までに相当な時間を要する可能性があります。

赤字：R4実績
青字：R5予定

■流域治水（長泉町版）の対策メニュー

3つの対策	対策メニュー(案)	主体	短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	黄瀬川（支川含）河川整備	国土交通省・県	○	○	
	都市計画法開発許可に伴う調整池設置の指導	長泉町	○		
	公園緑地の整備				○
	長泉町雨水排水路維持管理計画に基づく普通河川整備				○
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画 ・居住誘導区域内で行う防災対策・安全確保策を定める防災指針の作成	長泉町	○		
	地区計画の活用 集約都市形成支援事業を活用した災害ハザードエリアからの移転促進に向けた調査				○
	土地利用の適正指導		○		
	宅地建物取引業団体への水災害リスク情報等の説明		○		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	洪水・内水ハザードマップの作成・利活用	長泉町	○		
	マイタイムラインの推進 およびこれを活用した訓練の実施			○	
	防災出前講座の実施		○		
	ハザードマップ内の社会福祉施設等に対する避難確保計画の策定や簡易な止水対策等の取組に対する支援		○		
	要配慮者施設の避難確保計画や地区防災計画の作成支援		○		

■長泉町および関係機関の流域治水プロジェクト取組メニュー



※上記の対策は、今後の検討等により変更となる場合がある。

下図出典：国土地理院地図



自然災害に対する説明会の様子



河川防災授業の様子